

原子力関係人材育成事業
(国際化人材育成研修)

平成25年度 安全性向上原子力人材育成委託事業
成果報告書

平成26年2月

日本原子力研究開発機構
原子力人材育成センター

平成 25 年度 安全性向上原子力人材育成委託事業
「国際化人材育成」

日本原子力研究開発機構・原子力人材育成センター

要 旨

東京電力福島第一原子力発電所事故以降、日本の原子力界には今まで以上の国際的な対応が求められ、グローバルな視野を持ち、世界で活躍できる高い資質を有する人材の育成が必要とされている。本事業では、特に若手の技術者等を対象に、今後の国際貢献（事故の教訓に基づいた知識・経験の伝承）、新規導入国技術者等との交流拡大・継続的技術指導、欧米技術者との交流・意見交換及び相互協力などに際して必須となる英語によるコミュニケーション能力の向上や視野の拡大を目的とした研修プログラムを構築し実施した。研修生は、原子力人材育成ネットワーク参加機関に募集をかけ集まった産業界及び原子力関係法人・団体等の 16 名の若手を対象とし、オリエンテーション・国際人養成合宿を通して、英語原子力専門用語で福島状況を自らの言葉で発信することや世界と比較して日本を捉えることを学んだ。短期間のコースではあったが、研修生に明確なスピーキング能力の向上、発想の転換が認められ、普段は触れ合うことの少ない異業種同士でヒューマンネットワークも構築でき、効果的・効率的な人材育成が達成できた。



目 次

1. はじめに
2. 実施計画
 - 2.1 プログラム概要
 - 2.2 実施体制
3. 実施内容
 - 3.1 コース目標
 - 3.2 <第1部>オリエンテーション（認識付与プログラム）
 - 3.3 <第2部>国際人養成合宿
4. 成果
 - 4.1 研修生へのアンケート結果
 - 4.2 メンター講評
5. まとめ
 - 5.1 取組の評価
 - 5.2 今後の計画

添付資料

- 1) 第1部 オリエンテーション プログラム
- 2) 第2部 国際人養成合宿 カリキュラム
- 3) アンケート結果総括

参考資料

- I. <第1部>オリエンテーション関係資料
 - 1-1 講演資料
 - 1-1-1 養成コース概要
 - 1-1-2 国内人材国際化分科会の紹介
 - 1-2 コース説明資料
 - 1-2-1 カリキュラム概要
 - 1-2-2 Group Work Topics & Tasks
 - 1-3 合宿までの課題
 - 1-3-1 Assignments to Overcome
 - 1-3-2 Telephone Interview
- II. <第2部>国際人養成合宿
 - 2-1 シラバス
 - 2-2 講義資料
 - 2-2-1 British Hills 配布資料
 - 2-2-2 Day 1 How to Brush up Your English
 - 2-2-3 Day 1 International Capacity_2013
 - 2-2-4 Day 1 Lecture 1 (TMI and Fukushima Accidents)

2-2-5 Day 2 Lecture 2 (Reactor Safety)

2-2-6 Day 3 Lecture 3 (Risk com-compatible)

2-2-7 Day 4 Lecture 4

(Circumstances of Nuclear Energy Introduction in Developing Countries)

2-2-8 Day 4 WNU and NEM

2-2-9 Day 5 Nuclear Power after Fukushima

2-3 講師プロフィール

2-4 関係用語 Keyword 集(和英)

Ⅲ. 評価資料

3-1 アンケート結果

3-2 メンターリポート

3-3 British Hills の研修生に対する評価

Ⅳ. その他

4-1 British Hills 報告書

4-2 役務契約先からの報告資料

4-3 活動の外部投稿原稿

4-3-1 「企業と人材」掲載予定記事

4-3-2 原子力国際人材養成コース・開催報告(NW 報告会)

1. はじめに

福島第一原子力発電所事故以降、国内では廃炉や安全基準の厳格化に向けての政策が取られる中、世界各国からは事故関連情報をはじめ、安全確保のための新たな技術開発等について情報共有を求められ、また、一部の新興国からは継続して原子力導入への協力を求められるなど、より一層、様々な形での国際的な対応が日本の原子力界に求められている状況にある。また、今後原子力技術の国際的な基準の確立や廃止措置拠点化等においても国際交流は必至であり、我が国の技術者・研究者等の国際的な活動の機会が増大することが予想されている。さらに昨年11月に発表された原子力委員会の見解においても「原子力の国際展開に向けた人材育成の取り組み」として国際的人材の必要性が述べられている。

本事業では、将来、国内の原子力関係各組織（企業、研究機関等）の管理者となることが期待される若手に我が国及び世界の原子力のあるべき姿を長期的かつ国際的な視野に立って考える機会を与えるとともに、特に今後の新規導入国に対する我が国原子力産業の展開を担っていく人材の国際化に貢献すべく研修プログラムを構築し実施する。

2. 実施計画

国内の特に若手の技術者等を対象に、今後の国際貢献（事故の教訓をベースにした知識・経験の伝承）、新規導入国技術者等との交流拡大・継続的技術指導、欧米技術者との交流・意見交換及び相互協力などに際して必須となる英語によるコミュニケーション能力の向上や視野の拡大を目的とした研修プログラムを構築し実施する。

2.1 プログラム概要

本事業における人材育成プログラムは、以下のとおり2部構成で行う。

<第1部> 認識付与プログラム

時期：平成25年11月頃（第2部より2週間前頃までを予定）

内容：我が国の現在の（原子力の）立ち位置を認識する。国内各界のシニアによる課題提案・指導（メール・電話で対応）を通し、現状認識を促す。第2部に至るまでの宿題、オリエンテーリング、レポート作成を実施する。

【テーマ例】

- ・日本が直面している課題について（各種報告書、見解書等より）
- ・世界から求められている日本の役割について
- ・現状における技術的課題について

<第2部> 国際人養成合宿（学習）

時期：平成25年12月（予定）

期間：5日間（月～金）

場所：British Hills（体験型国際研修センター：福島県）又はラフォーレ那須（栃木県）など（予定）

内容：日常から隔離された場所で集中的に英語による、原子力テーマ学習等により、英語力の強化を促す。研修生の積極的な参加を促す講義・討議・発表セッション、グループ討議・プレゼンテーションにより、自分の考えをまとめ発表する。これらをテーマ別に実施することにより、それらについて外国人と意見交換できるようになることを目標とする。外国人講師の他、国際経験豊かな国内のシニア人材を講師として活用し、若者の国際的業務への動機付けを促進させる。

【テーマ例】

- ・ 廃炉に向けての課題と具体的方策
- ・ 本来のリスクコミュニケーションとは？
- ・ 新興国における原子力導入の状況
- ・ 日本と世界のエネルギー事情と原子力の役割
- ・ 原子力安全確保に係る課題
- ・ 放射性廃棄物処理処分の課題
- ・ 原子力と環境問題（地球温暖化など）

対象者は、産官学の原子力人材育成ネットワーク参加機関に所属する学生、若手職員（年齢：35歳くらいまで）とし、参加人数は第1部及び第2部とも参加できる15名（予定）とする。

2.2 実施体制

本事業の実施体制は、実施責任者に独立行政法人日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター長を置き、同センターセンター付技術副主幹が取りまとめを行い、「国内人材の国際化研修」について教育担当者を配置して行う。

3. 実施内容

3.1 コース目標

実施計画を元に、下記の4つに重点を置きプログラムを構築した。

- ・ 福島原発事故後の原子力をとりまく世界情勢を知り、日本を相対的に捉える感覚を養うとともに、日本人として自ら福島原発事故の状況について説明できるようになる。
- ・ 中長期的に国際原子力人材を拡充するため、幅広い原子力関係者を対象に、英語を勉強する「動機付け」、「キャリアデザイン」、「長期的な学習の方向付け」を与える。
- ・ より上級となる国際コース（IAEA マネジメントスクール、世界原子力大学の夏季研修等）参加のためのステップアップを図る。

3.2 <第1部> オリエンテーション（認識付与プログラム）

○要点

第2部への導入を潤滑にし、研修の効果・効率を高めるために、事前に研修目的、

プログラムの概要説明を行った。また、第2部で実施する討論・発表等に備えるため、必要となる事前勉強を提示し、英語での発信力を高めるために、電話インタビューを受けることを必須とした。更に第2部期間中は、グループワークが多くなるため、研修生同士、事務局の人的つながりを構築できるよう実施方法を工夫した。

1) オリエンテーション会合

実施期日：平成25年11月22日（金）

実施場所：日本原子力研究開発機構 東京事務所（東京都千代田区）

実施内容：添付資料1のプログラムに沿って実施

- ・研修目的、コース概要説明
- ・自己紹介
- ・講演「海外から見た日本人」
- ・English Exercise
- ・電話 Interview（British Hills 対応）

参加研修生：11名（電力・メーカー8名、他3名）

（5名の研修生は業務の都合で参加できず、当日の内容については別途事務局より周知した）

- 配布資料：
- ・カリキュラム
 - ・研修生リスト
 - ・各講義/演習別シラバス
 - ・Group Project について（説明文/希望テーマ調査票）
 - ・講師、メンターのCV
 - ・事務局スタッフとの電話インタビューの希望日程調査票
 - ・課題一覧（第2部までの宿題）
 - ・Nuclear English（冊子）
 - ・ブリティッシュ・ヒルズ研修参加者へのご案内
 - ・ブリティッシュ・ヒルズ⇄新白河駅シャトルバス時刻表



他己紹介のための準備中



English Exercise

特記事項

- 自己紹介は、研修生間の親密感を短時間で醸成するために、パートナーが相手に成り代わって自己紹介をする「他己紹介」形式とした。

- 午後は原則「英語セッション」とし、研修生に英語に触れて貰うとともに、第2部の模擬体験をして貰った。
- 第2部で研修期間を通して実施する Group Project は、関心を共有する研修生が議論を通して結論をまとめ、最終日に全員の前で発表する演習である。オリエンテーションでは、Group Project のテーマを説明するとともに、事前に希望するテーマの調査票の提出を依頼した。
- 課題（第2部までの宿題）として、授業の関連サイト予習、キーワード提出、初日のスピーチ準備等を課した。準備するスピーチは、3～5分を目途に「自己紹介」と「My Goals」の2件。（参考資料参照）
- British Hills 講師との電話インタビューは、ネイティブスピーカーとの対話で英語感覚を印象付け、研修までに緊張感を高めてもらうことを狙って実施した。（参加できなかった研修生には、別途 British Hills にて対応）

2) 電話インタビュー（事務局対応）

実施期日：平成25年11月27日（水）～12月4日（水）

実施方法：3つ(3人)の内容を提示し、少なくとも1つについては電話で30分、英語で会話することを必須とした。希望で3回まで実施可能とし、内容は、以下の3つを設定した。

- ・生活英語一般
- ・放射線ホットライン対応
- ・原子力発電関連技術

特記事項

- 本取組みは、電話での会話を通じ研修生の英語への慣れ、準備、練習を支援し、第2部（英語）への心構えを強化するために実施した。オリエンテーション会合に参加できなかった研修生にも、この電話インタビューを通して動機付けを行った。
- 電話インタビューの結果を事務局スタッフで共有し、第2部に必要な準備（グループ分け、個別支援対策等）の参考とした。

3.3 <第2部> 国際人養成合宿

○要点

合宿の6日間で最大限の効果をあげるため、7:30～21:00の間に組まれたプログラムは質疑応答も含めて全て英語で行うとともに、隔離された場所で、英国での生活が疑似体験できる施設を会場として、授業以外の日常生活においても異文化体験が余儀なくされる環境で実施した。

コース1～3日目は、福島原発事故を受けてのテーマ、4日目は、原子力新規導入国を見据えてのテーマを設定し、テーマに沿って、講義-グループ討議-発表を一連の課題として、研修生が積極的に取り組めるよう計画した。同時に、Group Projectとして研修生を3つ（3テーマ）のグループに分け、それぞれのテーマについて複数回

ディスカッションする時間を設け、最終日の5日目に結果発表の場を設けた。

上記の課題とは別に、英語での発信力を高め、ネイティブと会話する経験の場を提供することを目的に、ブリティッシュ・ヒルズ専属の英語講師による Presentation Skills などのビジネス英語の授業を日替わりで行った。この他、日本の文化/歴史/スポーツを英語で説明することや、国際機関での模擬面接体験、英語学習等をテーマに短時間のセミナーを行い、国際化動機付けを図った。

1) 開催概要

実施期間：平成 25 年 12 月 8 日（日）～12 月 13 日（金）

実施場所：ブリティッシュ・ヒルズ

（福島県岩瀬郡天栄村大字田良尾字芝草 1-8）

研修生：16 名（日立 GE ニュークリア・エナジー、東芝、三菱重工業、
日本原子力発電、東北電力、北陸電力、関西電力、
中国電力、原子力安全基盤機構、原子力安全推進協会、
日本原子力研究開発機構）

講師陣容：メンター兼講師 3 名（外人 2、日本人 1）、コースメンター 1 名、招聘講師 2 名、講演者 2 名、講師兼事務局 2 名

内 容：添付資料 2 のカリキュラムに沿って実施

- ・講演 2 回（1hr×2）
- ・講義-グループ討議-発表セッション 4 テーマ（2.5 hr×4）
- ・グループワーク（6 hr）及び成果発表会（1.5 hr）
- ・英語専門研修（1.5 hr×7） Business Programme
- ・早朝セミナー他（8hr）
（参加型英語研修会合、模擬面接、英語の勉強の仕方等）

2) カリキュラム構成

○講義-グループ討議-発表 セッション

[形式]

各分野の専門家からの講義後、講師より提示された課題をグループに分かれて討議し、まとめたものを直後に発表する。

テーマは、福島第一原子力発電所事故に係るものを中心とするが、国際感覚を養うため、福島についての内容も海外での経験、海外事例との比較、世界情勢を取り込んだものとし、日本を相対的に見る訓練も兼ねて実施する。

テーマは以下の 4 つ：

- ・ TMI と福島第一原子力発電所事故との類似点/相違点
～どんな Lesson を吸い取るか～
- ・ 福島第一原子力発電所事故後の原子力安全に係る課題
～安全性向上を目指して～
- ・ 原子力産業リスクの考え方 -海外事例-
～原子力への過度のリスク感覚？どう克服するか～
- ・ 新興国への原子力導入の状況

～支援国、技術提供国としての難しさは何か～

[狙い] -原子力に係るテーマを英語で聴く

-グループ討議を通してテーマの理解度を高める

-英語で自分の意見を発信、短い時間内でグループの意見をまとめる練習をする



講義風景



講義後のグループ討議

○Group Project

[形式]

オリエンテーション時に提示した3つのテーマに、研修生を希望に沿って3グループに分け、1グループに専属メンターを1名ずつ配置した。討論は研修生主体で進め、メンターは研修生の討議が偏ったものにならない様、補佐役を務める。各グループで、討論/資料作成(PPT)を連日重ね、最終日にグループごとに発表する。設定したテーマは、以下の3つ：

・「福島事故の現状と『収束』へのシナリオ」

(海外原子力専門家対象の説明を想定、放射性廃棄物処理の問題について言及)

・「同事故による身体・環境への放射線影響」

(地方自治体、看護師への説明を想定、リスクコミュニケーションについて言及)

・「同事故からの社会復興状況」

(近隣諸国の風評被害を和らげ観光東北PRを想定、汚染水の問題についても言及)

[狙い] -同じ興味のあるテーマについてグループで掘り下げて考える

-対象(誰に対して説明するのか)を意識した発表資料の作成をする

-英語でのグループワーク(役割分担決め、討議、意見調整等)を経験する

-大きな会場で英語で発表する



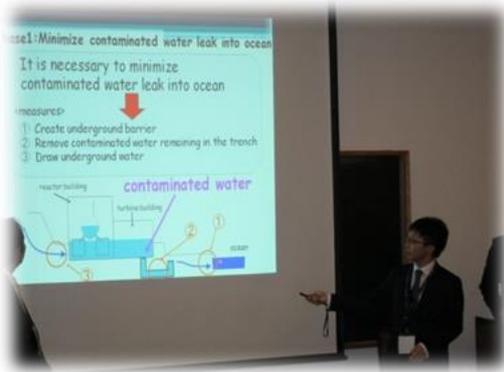
グループワークの様子1



グループワークの様子2



発表会場



最終日の発表

○Business Programme

[形式]

ブリティッシュ・ヒルズ専属の英語講師による授業を2グループに分かれて実施する。国際的に発表する場ですぐに役立つよう、プログラムには、Presentation Skills、Talk about the News (原子力関連記事)、Social English、Discussionの課目を取り入れ、それぞれのテーマでポイント・ノウハウを学んだ後に実践を行う。

[狙い] -Presentation Skills: スピーチの構築・発表の仕方等及び実践

-Social English: 社交の場での英語、文化の違い等及び実践

-Talk about the News: 英字新聞の構成、読み方等について学ぶ

-Discussion: 自分の主張の通し方、相手を説得する英語等について学ぶ



Social English



Presentation Skills

○英語を勉強する「動機付け」、「キャリアデザイン」、「長期的な学習の方向付け」を与えるためのプログラム

[形式]

研修生それぞれの国際化を意識的に高めるためのプログラムとして、下記の項目を実施した。

<講演> ・国際人としての素養を高めることとは

・福島後の原子力と若手・中堅への期待

<スピーキング強化>*

- ・早朝セミナー/英語の勉強の仕方
- ・Round Table Discussion (日本について)
- ・スピーチ各種 (Self-Introduction, My Goals)

<自己啓発の参加型英語研修会合> (Toastmasters Club 模擬 Meeting) **

<海外での面接シミュレーション> (任意) ***

- [狙い] -英語を話す、大勢の前でスピーチをすることへの抵抗感をなくす
-勉強する方法等を紹介することで研修終了後も英語の勉強を続けて貰う
-英語での活躍の場、必要とされる場の紹介を通し、動機付けを図る
-国際的な場面で日本人として説明を求められるトピックスについて話す



Toastmasters Club 模擬 Meeting



海外での面接シミュレーション

注) * <スピーキング強化>では、英語による自己表現の訓練及び日本のスポーツ、芸術、歴史等について海外の人に説明する訓練を実施する。

** <自己啓発の参加型英語研修会合> (Toastmasters Club 模擬 Meeting) では、パブリックスピーキングのための基本技術の中から「body gesture」を選び、言葉以外の Non-verbal communication を準備してもらい (2人)。会合では、他人のスピーチを聴いて、評価の上コメントを口頭で話す Evaluator 役 (1人)、ある話題を選んで即興で受け答えの練習をする Table Topics Session の進行役 (1人) も研修生を募集する。会全体の進行など大きな役割は事務局で受け持つ。勿論全て英語での運営である。事務局員は事前に公式の Club Meeting に複数回参加して実践経験を積んだ。

*** <海外での面接シミュレーション>では、IAEA の空席情報を参考に興味ある公募ポストへのシミュレーションを試みる。例は IAEA への応募だが、どんな面接でも訊かれそうな場を設定し、模擬面接官は海外メンターを含め事務局スタッフ数人が担当する。これも全て英語の運営である。

特記事項

-グループ作業について

6日間を通し、研修生は3通りのグループ分けに沿って、作業した。小グループに分けることで、研修生の積極的な参加を促し、具体的な作業と結果発表を義務づけることで、たえず英語で発信する必要があるように工夫した。

また、異業種間での意見交換が可能となるようグループ分けをし、立場の違った視点からも課題に取り組めるよう配慮した。

- ・グループ分け1（講義-グループ討議-発表セッション）

あらかじめ応募申請時の英語力、専攻分野や出身母体の重複回避をもとに分け、更に事務局からの電話インタビューで得た英語能力情報を考慮して最終決定とした。

- ・グループ分け2（Group Project）

研修生の希望するテーマを基準に分け、出身母体と英語力で微調整を行った。

- ・グループ分け3（Business Programme）

British Hillsの電話インタビューをもとにグループ分けを行った。

-メンターについて

6日間を通して研修に立ち会った4人のメンターは、各自の専門性を活かした指導、サポートを提供することは勿論のこと、各課題について熟練者、経験者、年長者として研修生と意見交換を行い、研修生の視野拡大に務めた。

コース全般でも、研修生に声をかけ英語で話す抵抗感の解消に務めるとともに、海外生活の経験談、仕事上の失敗談を通して、研修生の国際的な場への心構え、対応意識の向上に貢献した。

4. 成果

項目3. 実施内容に沿って

- ・オリエンテーション、英語で発信して貰うための各種取組み、更に授業以外の日常生活においてもイギリス式環境下にて英語での対応を行い、英語を勉強するモチベーションアップ、英語によるコミュニケーションスキルアップを効果的・効率的に進めることができた。
- ・福島第一原子力発電所事故に係る課題/話題、新規導入国に係る状況等について、知識の伝達のみならず、研修生同士で討議しひとつの回答をまとめて発信していく作業を通して、国際的な場面で日本の状況を説明するという模擬訓練ができた。
- ・国際経験豊かな国内外メンターと意見交換を行うことで、日本を客観的に見て考える経験を提供できた。
- ・普段交流する機会の少ない他業種同士を一堂に集め、協力・意見交換をする場を提供したことで、これからの原子力の将来を担う若い人材のネットワークの構築に寄与した。

短い時間で、研修生はプレゼンテーションの内容においても、英語力でも飛躍的な伸びが見られ、参加者とのネットワーク構築、英語を勉強するモチベーションアップも達成できたと考える。

4.1 研修生へのアンケート結果

研修生 16 名のアンケート結果を添付資料 3 に示す。コース全体の評価は以下の通りである（表 1）。研修生全員より大変良い又は良いと好評価を得た。また、来年、本コースが開催された場合に同僚や後輩に勧めますか、とのアンケートでは、全員が勧めるとの回答であった。

表 1 研修生によるアンケート結果（16 名）

Overall					Course Composition					Lecture				
Excellent	Good	Average	Below Average	Poor	Excellent	Good	Average	Below Average	Poor	Excellent	Good	Average	Below Average	Poor
10	5	0	0	0	5	9	1	0	0	9	6	1	0	0
Discussion					Communication (with other trainees)					Duration				
Excellent	Good	Average	Below Average	Poor	Excellent	Good	Average	Below Average	Poor	Too Long	Long	Good	Short	Too Short
8	6	2	0	0	11	4	1	0	0	1	2	12	1	0
Accommodation					Transportation					Recommendation				
Excellent	Good	Average	Below Average	Poor	Excellent	Good	Average	Below Average	Poor	Yes	No			
10	2	4	0	0	2	6	7	1	0	15	0			

4.2 メンターによるコース評価

メンター 4 人からの講評で主だったものを下記に示す。

○プログラムについて

- 全般的によく考えられており、研修生に原子力をとりまく様々な視点を提供できていた。
- <スピーキング強化>プログラムは、研修生に本コースを乗り切る上でも、今後の活躍にも、とても役立ったと思う。
- British Hills 講師からの授業で教えられる内容は、国際社会で活躍していく上で基本となる事柄を含み、有効であった。

○会場について

- 山の上に隔離された British Hills は、研修生の海外研修模擬体験に十分な環境であり、周りに何も無い状況は研修生同士の繋がりを深めるにもよい場所であった。

○研修生について

- 広範な分野から集められていたが、総合的に質も高く、チームワーク力は抜群だった。
- コースから恩恵を受けるには英語力が若干足りない研修生が見受けられた。
- 研修生数は若干多くてもよい。例えばメンターの数を 1 名増やして 25 名にする。
- 世界原子力大学の夏季研修に比べて、グループあたりの人数が少なく、全員が積極的に参加できていた。

○改善点について

- 原子力産業界が協力している海外企業の日本支店から外国人を招聘しての講義や WANO 東京事務所から外国人を招聘しての講義を実施する。
- 7:30~21:00 までのスケジュールは若干厳しく、研修生に疲れも認められたので、途中で中日を設け、夜のプログラムは割愛する。

5. まとめ

5.1 取組の評価

本プログラムは、原子力に係る広い分野の若手技術者・研究者を対象とすること、また目的としている内容に比して研修期間が短いこともあり、準備段階で以下の点に注意を払った。

- ・原子力人材育成ネットワークの“国内人材の国際化分科会”にてメンバーとの内容についての意見交換
- ・海外経験豊富なコース・コーディネータを配置し、プログラム、配布資料、メンター、カリキュラムにつき繰り返し調整
- ・British Hills 担当講義について、原子力をテーマに実施して貰うべく必要な調整と情報提供

中でも、今回、研修効果を最大限に高めるため、不必要な内容の重複や目的を逸した講義等をなくすため、コースをトータルコーディネートするために、全ての講義時間で何を実施するか、何を研修生に期待するかを示したシラバスを作成した。今後、類似した研修活動を行っていく上で本シラバスの利用価値は高いのみならず、研修生にとっても、何を自分達がするのか、しなくてはいけないのかを事前に確認でき、短期間の研修では非常に効果的であったと考える。

本国際化人事育成研修の特徴は、下記にまとめられる。

○本研修の特徴

- 独りでは実践しにくいスピーキングに重点を置いた。
- 福島原子力発電所事故含む原子力に係る話題について英語で聞き、考え、発信するのみならず、その影響やエネルギー全般について、外国人メンターとの意見交換を可能とした。
- 英語のプレゼンテーション、ディスカッション等、専門の英語講師による実践を交えた指導を盛り込んだ。
- 海外経験豊富な日本人メンターより、キャリアデザイン、海外で活躍するための知恵等、今後の自己啓発のきっかけを提供した。
- 隔離された場所で、授業以外の日常生活においても他の研修生と時間を共有することで、研修生間・参加者間の強い人的ネットワークの構築に寄与した。

5.2 今後の計画

来年度も継続して開催してほしいとの要望が多く、今年度の経験を反映して来年度も同様の研修を実施することを検討している。

本報告書は、日本原子力研究開発機構が、経済産業省からの委託を受けて実施した事業の成果報告書です。